

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

『やさしいっぱい』『ともだちっぱい』『みんないきいき』瀬ヶ崎っ子

- 「分かる授業」「楽しい授業」を目指して、一人ひとりの子どもをより確かに理解し、学習内容を確実に身につけられるように取組を進め、確かな学力・人間性豊かな子を育てます。(知)
- 子ども同士のかかわりを深め、互いに違いを認め、いじめや差別のないなかまづくりを進め、偏見や差別に対して、「おかしい」と言える子を育てます。(徳)
- 「早寝」「早起き」「朝ごはん」の規則正しい生活をする姿勢を培うとともに食教育を進め、自分や人の生命と体を大切にする健康でたくましい子を育てます。(体)
- 家庭や地域と連携を図りながら、自分たちの住んでいるまち「せがさき」をはじめ、金沢区や横浜に誇りをもてる子を育てます。(公)
- 様々な人とのコミュニケーションをとおして、ものの見方や考えかたを広げようとする子を育てます。(関)

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

コミュニケーション力
問題発見・解決能力
自分づくりに関する力(自尊感情の育成)

具体化した資質・能力

- 人間尊重の精神に基づき、豊かな人間関係を築いていく力を育みます。
- 身近にある偏見や差別に気づき、それに向き合い、それをなくしていこうという心情と行動力を育みます。
- 自然体験や社会体験を通して自ら問題をとらえ、それを主体的に解決していく力を育みます。

中期取組目標

- まちとともに歩み、「だれもが」「安心して」「豊かに」すごせる学校にします。
～令和にふさわしい瀬ヶ崎小学校の在り方を模索する3年間～
- ・子どもに寄り添い、一人ひとりを大切にするとともに、その教育に情熱と使命感をもって臨む教職員集団を目指します。
- ・学校教育目標の具現化と諸課題の解決に向かって、教職員が一体となって取り組める組織作りに努めます。
- ・子どもたちが、主体的に学ぶということを大切にして、授業改善に努めます。
- ・家庭や地域とのかかわりを豊かにし、結びつきを強めていくとともに、これまで大切にしてきた人権教育を、現代的課題をふまえて、さらに重視した教育活動を展開します。

学力向上アクションプラン

重点取組分野		具体的取組
授業改善		①これまでの研究の蓄積を活かして、瀬ヶ崎スタンダードや授業デザインを教職員全体で定着、発展させる。 ②互いに認め合う「子どもと子どもがつながり合う授業」からコミュニケーション力を育み、学力向上につなげる。 ③教科担任制、チームブロック経営等を通した一人ひとりの学習状況把握と基礎学力の定着を図る。 ④朝学習や読書タイムの充実と、特別支援教室や、ICT活用、アシスタントティーチャー等との連携による基礎・基本の定着。 ⑤児童の疑問で始まり、児童同士で思考をつなぎ、次の疑問へつなげる児童中心の学習の徹底。
担当	重点研推進委員会	

学力向上に関わる本校の状況

○朝学習の時間に国語や算数を中心に、基礎学力の定着を図ってきた。そのため、基礎・基本の習得ができてきている。問題解決学習に焦点を当てて取り組んで来ているため、児童の課題設定、調べる力が身についてきている。「ひと・もの・こと」に関り、観察・調査をして調べる力が身についてきている。さらに、調べたことや考えたことをもとに話し合い、活用してまとめていく力を養っていく。それとともに、学習した知識をもとに表現していく力を養っていく。

○重点研究を通じて、児童同士の「コミュニケーション力」の向上に努めてきた。「レディネスタイム」や「小グループ」での話し合い活動をどの学級も取り入れて、「話す・聞く力」が身についてきている。さらに、聞いたことから話を展開し、広げたり深めたりする力の育成に努めていく。

今年度の目標

コミュニケーション力を育み、自尊感情を高める授業を進め、児童の自尊感情の育成を図る。～子どもと子どもがつながり、伝えあう授業、資質・能力の育成ををめざして～

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	○幼稚園や保育園、地域の方々との交流を通して、人との出会いを大切にできるような場を年間通して設定する。(1年) ○生活科などを通して、自分たちの住む“せがさきのまち”に愛着を感じられるよう「ひと・もの・こと」に関わり、子どもたちが主体的に活動できるようにする。(2年) ○身近な地域や横浜市の様子について、地形や土地利用などに着目して、観察・調査したり資料で調べたりすることを通して、身近な地域や市の様子を大まかに理解できるようにする。(3年) ○学習のどこが解決すべき問題であるかを考え、その解決のために友達の意見を聞いたり、話し合ったりしながら自分達なりの解決方法を見つけられるようにする。(4年) ○米作りを通して、自分達が食べるためだけでなく地域のコミュニティーと連携してできることを考え解決できるようにしていく。(5年) ○学習課題を子どもとともに作り、切実感をもって学習に取り組めるようにする。自分の考えを素直に表現するとともに、他者の考えも理解しようとしながら思いをつなげるなかで、自己肯定感が高まるようにする。(6年) ○日常的に必要な生活習慣や学校での過ごし方が身につくよう、計画的に位置づけ実践できるようにする。(個別級)
下半期	○活動を通して、相手意識をもって他者とかかわることができるような場の設定をする。生活科を中心に「ひと・もの・こと」に関わる活動できるようにする。(1年) ○活動の中で、わかったことや感じたこと、考えたことなどを相手に自分の思いを表現できるようにする。(2年) ○横浜市の移り変わりなどを、観察・調査したり資料で調べたりして社会的事象について考え、表現することを通して、社会的事象の意味等に迫ることができるようにする。(3年) ○様々な体験や調査からえた情報を観点に合わせて整理したり分類したりして、問題に対して考えを広げ、自分なりの表現が的確にできる場面を設定する。(4年) ○地域の居場所づくりをしている人々が地域のために活動していることを知り、自分自身で何ができるか考えることができるようにする。(5年) ○課題に対し、自己の生活や自分自身の考えと照らし合わせながら、粘り強く解決できるようにする。経験したり体験したりしたことを劇にして発表する過程の中で、課題を解決したり、伝えたいことを的確に表現できるようにする。(6年) ○様々な活動体験の中で、自分自身の思いや願いが表出できるような場面を設定する。(個別級)